

# 『いいね！ フリージア』

文 藏 雄 嗣

## フリージア

皆さんはフリージアという花をご存じでしょうか？南アフリカ原産で、アヤメ科フリージア属、半耐寒性の球根植物。和名では浅黄水仙（アサギスイセン）などと呼ばれています。開花時期は11月から4月頃までで、すらりと伸びた茎の先に蕾を付け、横へ連なるように次々と花を咲かせていきます。花色は黄、白、ピンク、薄紫、赤、オレンジなどがあり、また薄くピンクがかった花弁の中に薄い紫の筋が入ったような個性的なものもあります。そして、この花の最も特徴的なところが『香り』です。花色によって微妙な違いはありますが、代表的な黄色のフリージアには甘くさわやかな香りがあります。



## 自己紹介

私は茨城県つくばみらい市でこのフリージアを切り花で生産しています。つくばみらい市の農業は稻作が

中心で水田が多く、まさに関東平野といった雰囲気のところになります。茨城県というと東北地方に位置していると勘違いをされる人も多く、都内へは何時間もかかるてしまうと思われるようですが、つくばみらい市はアクセスが大変良く、高速道路なら30~40分、電車でも30分ほどで都内に行くことができます。東京都中央卸売市場大田市場へも1時間程度で行くことができるので、輸送条件を活かして鮮度の良い商品を出荷することができます。

私が生産しているフリージアは全てハウス栽培です。面積は約5,000m<sup>2</sup>で、年間70万本ほど出荷しています。フリージア以外には稻作を35ha、その他に何種類かの植物を露地で生産しています。労働力は私と妻、両親の家族4人、パート勤務3人の計7人で作業をしています。フリージアの出荷先はすべて市場で、北海道から大阪まで全国の20市場ほどと取引しています。

## 茨城県のフリージア生産・組織

あまり知られてはいませんが、私の住む茨城県はフリージアの生産量では日本一です。2018年の東京都中央卸売市場において、フリージアの取り扱い総本数は約457万本。その中で茨城県は約241万本と、全体の半数以上を占めており、次いで埼玉県が約69万本、山形県が約57万本、千葉県が約46万本、静岡県が約13万本となっています。これ以外にも、大阪府、和歌山県、徳島県、栃木県、群馬県などでも栽培されており、最近では石川県が自県で育種した新品種のフリージアで生産を伸ばしています。

茨城県には『茨城県フリージア研究会』と『竜ヶ崎花卉組合』という2つの組織があります。県内の生産者は、ほとんどが県南部に集まっており、どちらかの組織に所属しています。

茨城県のフリージア生産は1945年頃から始まったとされています。そこからだんだんと生産者の数が増えるにつれて、積極的に意見交換や技術の追求を組織的に取り組んでいくと1986年に茨城県フリージア研究会が設立されました。茨城県フリージア研究会は個人生産者が集まり、品質の向上、技術の発展を目標に、

定期的に勉強会や意見交換会などを行っている団体です。当初の会員は40名程で、現在は15名で活動しています。昨年より、私がこの茨城県フリージア研究会の会長を務めています。

そして、茨城県のフリージアだけではなく、むしろ国内のフリージアにとって最も重要な組織として竜ヶ崎花卉組合があります。この組合は茨城県フリージア研究会とは異なり、経営をひとつにする組織、いわゆる共選組合になります。現在約7名の組合員で構成され、品質、生産量とともに国内トップの生産組織で、出荷市場も全国に及び、大田市場には定期的に足を運び、情報収集、意見交換、即売会など精力的に活動し、国内のフリージアをけん引しています。

これまで茨城県フリージア研究会と竜ヶ崎花卉組合は活動をそれぞれ別にしていましたが、両組織とも生産者が減り、生産量が減少傾向にあるという課題に直面していました。そのため、今後は協力して情報交換、PR活動などをしていくこと意見が一致し、今年度より竜ヶ崎花卉組合の代表3人が茨城県フリージア研究会に加わり、共に活動をしていくことになりました。



茨城県フリージア研究会

#### 全国のフリージア生産組織

国内にはフリージアの産地、組織はまだまだたくさんあります。いくつかの代表的な産地をご紹介します。

まず、代表すべきは埼玉県の高成園があります。ここでは、一般流通する葉付きのフリージアよりもボリュームを持たせ、蕾の最後まで花を咲かせるという枝切りスタイル『ユーロスタイル』という独自の出荷形態を持ち、販売店などから大変人気を得ています。高成園は個人農家であるものの、代表の高鶴氏は花業界関係者との交流も広く、知識とアイデアにあふれ、フリージア生産者の代表的存在でもあります。

他にも、山形県ではJA山形市の花卉園芸専門委員会やJA鶴岡の花卉部会などJA主体の組織があり、フリージア以外にもアルストロメリアやストックなど様々な花を生産しています。また進藤園芸など個人

生産者もあり、最近生産量を伸ばしてきています。静岡県のJAとぴあ浜松もフリージア生産の歴史は長く続いているです。

また、ここ最近フリージア業界で話題を作ったのが石川県の『エアリーフローラ振興会』です。この組織は県が主体となり県独自で育成した品種を生産していることが、これまでにあった組織との大きな違いです。これまでフリージアの新品種の導入はオランダからの輸入商品しかありませんでした。国内育種の歴史が無いわけではありませんが、ここまで成功した例はありません。また石川県はプロモーション活動にも力を入れており、マスコミや様々な県内イベントなどの機会を利用し、積極的にPRしています。そのため2012年の出荷量2万本から2017年には30万本、現在では50万本ほどまで増えています。

#### 全国フリージア生産者協議会

2013年頃から茨城県フリージア研究会とエアリーフローラ振興会は、交流が始まりました。お互いの圃場を視察研修し情報交換などを行ってきました。2016年には「フリージアサミット」と題して茨城県で会議を開催し、茨城県フリージア研究会、竜ヶ崎花卉組合、高成園、エアリーフローラ振興会、各市場関係者などの参加のもとで、これからフリージアについて多くの意見を交わしました。

さらに翌年、石川県にて「全国フリージア生産者交流会」を開催し、フリージアサミットに参加したメンバーの他に、山形県、大阪府、群馬県などからも生産者が集まり、各産地の取り組みや、生産状況など意見交換を交わしました。その中で、今までのようにそれぞれの産地間で競合するばかりではなく、皆で情報や意見交換を行い、協力してフリージアの魅力をPRしていく必要があると全国組織設立の気運が高まりました。



2017年の石川県での全国フリージア生産者交流会

## 初年度は好スタート

2018年4月20日に全国フリージア生産者協議会が設立されました。会員数は約50名で、会長には埼玉県の高成園の高館氏が就任しました。また、各産地の代表がそれぞれ役員となり、運営を行うことになりました。私も役員（監事）として参加しています。全国組織の立ち上げは、フリージア業界では初の試みで、その期待もあり、会員の約半数が市場、花業界関係者になりました。4月の設立総会では大田花き代表の磯村氏をはじめ、多くの方から激励していただき「いよいよこれから始まるのだ」と緊張感と高揚感でいっぱいだったことを覚えています。

8月にはサマーミーティングとして夏の勉強会を開き、3名の講師の方に講演していただきました。その中で他産地の取り組みや、花業界でのプロモーション活動、また全国フリージア生産者協議会のこれから活動について多くを学ばせていただきました。

様々なプロモーション活動をしていくうえで、何かイベントグッズがあればよいのでは、という意見を受け、協議会オリジナルの幟を作成しました。会員それぞれが共通の物を手にすることで、より一体感が出るのではないかと思います。

2月には、サマーミーティングからのご縁もあり、花の国日本協議会が取り組んでいるフラワーバレンタインの活動に参加させていただきました。私たち全国フリージア生産者協議会が担当させていただいたのは、WOWOWオリジナルドラマとフラワーバレンタインのタイアップ企画で、ドラマ試写会の時にフラワーバレンタインをPRする、というものでした。フリージアをメインフラワーとして使っていただけすることになり、会場内の展示や、来ていただいたお客様へプレゼントを行いました。試写会当日は、会長と私の二人でお手伝いに行ったのですが、会場ではWOWOWのスタッフの方たちが会場準備と打ち合わせをし、花の国日本協議会のスタッフの方たちは、お客様へのプレゼントの準備や会場の展示をしており、本物のプロの仕事ぶりに圧倒され、しばらくは何もできませんでした。開場時間となり扉が開かれると、私たちの出番になり、入場してくるお客様に、精一杯の引きつり笑顔で、1本ずつ丁寧にフリージアを渡すことが出来ました。たくさんのお客様から「ありがとう」の言葉を頂きましたが、中には「あっ、フリージア。私この花好きなんです」と言ってくれた人もいて、これまでの即売会や店頭販売とは少し違った嬉しさを感じました。今回のフラワーバレンタインの活動に参加できたのも、全国

フリージア生産者協議会の設立と会長の熱意のおかげで、花の国日本協議会の中でフリージアを推薦していただけたのだと聞きました。イベントを通して、私たち全国フリージア生産者協議会の活動を後押ししていただけた花の国日本協議会の関係者の皆様には、あらためて感謝しております。

ここからは少し余談ですが。お客様の会場入りが終わり、私たちの出番が無事終了した後、この日の舞台あいさつに来られていた出演俳優の皆さんに直接お会いして、フリージアの花束をお渡しすることができました。握手をしていただき、ドラマもしっかりと視聴させていただいて、幸せいっぱい帰宅しました。数日後、出演者皆さんの直筆サイン入りポスターまで届けていただき、自分にとって最高の出来事となりました。

また2月下旬には大田市場内にて大田花きとフラワーオークションジャパンの共催で、全国産地のフリージアを合同展示しました。この企画は私が担当することとなり、各産地への連絡や両市場との打ち合わせ、Facebookなどでの広報活動と慌ただしくしていたのを思い出します。展示会当日までは、展示するフリージアがちゃんと集まるのか、会場づくりはきちんとできるのか、など不安だらけでしたが、両市場のスタッフや会員の皆さんのご協力のもと、無事に展示会を行うことができました。各産地の個性あふれるフリージアが一堂に集まり展示され、さらにプロのフラワーデザイナーによるフリージアメインのアレンジメントの数々が会場をより一層華やかにし、会場全体が甘いフリージアの香りで包まれました。出来上がった会場を見たときには、関係者の皆さんの協力が実感でき、さらにこれまでの不安から一気に安堵し、目頭が熱くなったことを覚えています。また当日は、大田花きとフラワーオークションジャパンの両市場でセリ前挨拶も行ったのですが、実は私はこの時が初めてのセリ前挨拶で、セリ前の忙しいピリピリした空気と、この上ない緊張とで、伝えたかった内容の半分も話をすることができないまま挨拶を終えました。何とか全国フリージア生産者協議会のこと、合同展示会のこと、フリージアのことについて話したと思いますが、全く覚えていません。後で市場の担当の方から「展示会も挨拶も好評でした」と聞き、ようやく肩の荷が下りた思いでした。その後も展示会に足を運んでいただいた方々から沢山のご評価をいただきました。展示しているフリージア以外にも、出荷についてや効果的なチラシの使い方など、本当に多くのことを教わることでの



### 合同展示会

きた展示会となりました。

ここまで、多くの関係者のご協力のおかげもあり、これまで地域の組織だけでは成しえなかつたイベントを行えたことは協議会設立の功績といえると思います。生産面においても他産地と情報交換をすることで、技術的な新しい発見などもあり、自分たちの課題をより明確にることができ、会に参加することの意義を感じました。1年目はなかなかの好スタートだったと思います。

そして今年2年目に入りました。6月に東日本板橋花きにて総会を行い、協議会の運営についてご意見をいただきました。また、ここではフリージアを扱う種苗会社や園芸資材の会社に、それぞれの取り組みや商品の発表をしてもらい、新品種や生産状況、資材の取り扱いについて学ぶ機会を設けました。

8月には山形県でサマーミーティングを行いました。これまで、全国フリージア生産者協議会の活動のほとんどが都内を中心に関東地方で行われていましたが、全国組織として積極的に産地を回り、現場で視察しながら勉強会をしていくこうという考え方で、夏の勉強会はそれぞれの地域で開催することにしました。

11月になるとフリージアの出荷が本格的に始まることもあり、今後は更に魅力あるイベントを企画していきたいと思っています。昨年度同様、合同展示会も計画しています。



2019年山形のサマーミーティング

### 全国フリージア生産者協議会は誰のため

国内では花に関する組織、団体が多数存在し、中には精力的に活動を行い、情報発信をして、成果を出しているところも多くあります。全国フリージア生産者協議会は、まだそれらの足元にも及びません。これまで産地ごとでしかPRしてこなかったフリージア業界で、皆が一丸となってフリージアを盛り上げていこうという思いが、一つの組織となつたばかりです。実際には西日本をはじめ、各地域にはまだ入会していないフリージア生産者の方が大勢います。私はこの入会していない生産者の方たちが、全国フリージア生産者協議会に興味を持ち、入会してもらえた時こそ成果が表れた時になると思っています。

まだ1年半の活動とはいって、本当に多くの花業界関係者の皆様からご協力をいただきました。あらためて思うことは、全国組織を立ち上げたからといって、組織だけで活動は出来ないということ。単に組織を大きくしたり、厳格化したりして強い組織が出来たとしても、それに理解と協力をしてもらえる周りの関係者がいなければ、何の力も發揮できません。全国組織を立ち上げたからには、これまで以上に責任を持ち、花業界の人々との関係を強くして活動していくことが必要不可欠です。そして、活動を通して、一人でも多くの人たちにフリージアの魅力が伝わり、一人でも多くの人にフリージアのファンになってもらい、そして、フリージアを手にしてもらうことで、花業界に恩返しができるのではないかと思っています。大切なことは生産者だけのための組織ではなく、関係してくれた皆さんとのための組織でなければならないということです。

最後に、私たち全国フリージア生産者協議会の合言葉は『いいね！ フリージア』です。

これから皆さんにすこしでも多く「いいね！」と言ってもらえるよう、魅力あるフリージアを作り、イベントを企画し、PRしていきたいと思っています。自身でもFacebookを利用して情報発信もしています。ご興味ある方はご覧ください。業界関係者の方の入会もお待ちしています。